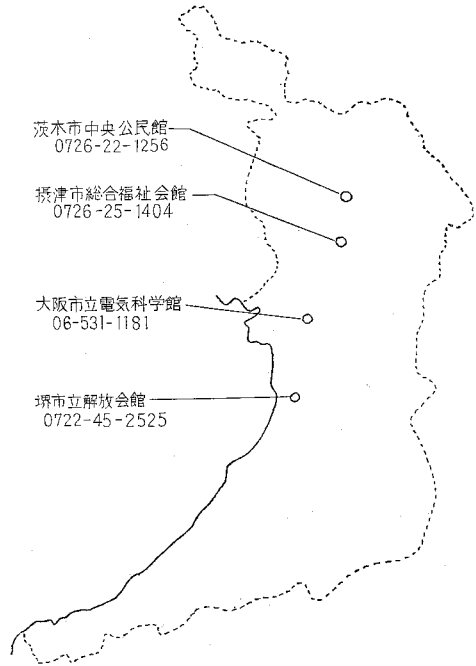


◇ 7月の天文暦 ◇

日時	記	事
2 2	下弦	
4 23	水星	西方最大離角
6 12	地球	遠日点通過
7 19	天王星	留
8 3	小暑	(太陽黄経 105°)
9 13	朔	
12 5	月	最近
16 0	土星	合
5	上弦	
22 9	金星	最大光度
23 14	望	
20	大暑	(太陽黄経 120°)
28 1	月	最遠
31 18	下弦	



☆天文教育施設めぐり (VI) ☆

大阪府篇

大阪市立電気科学館は電気の実用の一つとして6階にドイツ、イェナのカール・ツァイス社から購入した日本最初のプラネタリウムを設置し、1937年3月12日の開館以来38年間人々に星に対する興味を植えつけてきた。昨年末スカイライン投映器を設置して、ドーム周辺に月世界や南極のシーンを映し出している。毎日の一般公開のほか、12~2月の日曜午前中はボーイスカウト対象の投映、1~2月の週日午前中は小・中学生対象の学習投映を行なっている。幼稚園児対象としては6月の七夕祭、9月のお月見投映がある。毎月第4土曜日午後2時から東亜天文学会会長能田忠亮博士による天文講演会を催す。1昨年4月から小学5~6年生を対象とするジュニア天文講習会を始めた。これは毎月1回例会と観察会をもち、また会報「天象」を発行している。

大阪府下でプラネタリウムの一般公開を行なっているのは図に示した諸施設である。このほか枚方市、富田林市などでプラネタリウムをもった科学センター設立の計画が進んでいる。大阪市内や府下の小・中・高校でも望遠鏡のほか小型のプラネタリウムを設置するものがふえ、天文教育に効果的に用いられている。

公私立のプラネタリウム施設はとかく観光施設の一つと見なされているが、これは本来は博物館施設であるべきで、専門の学芸員をおき、資料の収集・保管・展示を行なうと共に、資料に関する専門的・技術的な調査研究を行なうことが望ましい。一方一般大衆も、博物館を文化施設として積極的に利用する習慣を身につけてほしいものである。(佐藤明達)

